



平成17年3月23日〜27日に上士幌町(竹中貫町長)イムノリゾート構想の一環で行った花粉症疎開モニターツアーに端を発して、本物の「健康を考える観光」ヘルスツーリズムへの挑戦が北海道から発信された。少なくとも200万人の国民が苦しめられているスギ花粉症をターゲットにした本邦初の本物の「健康を考える観光」の実践、反響も上々で、スギ花粉症モニター10人の募集に対して276名の応募があり、スギ花粉疎開ツアーに関する報道はテレビ、新聞、雑誌など50件にもおよび、イムノリゾートという言葉はたちまちヤフーの新語辞典に登場した。

なぜ「上士幌町」という北海道の小さな町で行ったモニターツアーがこれほどの反響を呼んだのか? それには2つの大きな理由が考えられる。一つは、多くの国民が困っている大問題(花粉症)をターゲットとして地域再生を考えたこと。もう一つは、これまでの物見遊山のな「健康と癒しの旅」ではなく、医学的根拠に基づいた本物の「健康を考える観光」を初めて実践したことにある。「スギが生息しない」という北海道と沖縄にしかない、神様が恵んでくれた自然環境を利用して、「花粉症の症状緩和、花粉症発症に関連する免疫バランスの改善」という課題解決型のメッセージ性を含めて観光やおこしに結びつけた斬新さが受け入れられたものと考えられる。また、北海道対ガン協会(中村徹会長)の中里恒昭常務理事を中心として昨年開催されたヘルスツーリズム検討委員会においては、100%我々の考えが受け入れられ、ヘルスツーリズムとは「医学的根拠に基づき健康回復

その改訂」という課題解決型のメッセージ性を含めて観光やおこしに結びつけた斬新さが受け入れられたものと考えられる。また、北海道対ガン協会(中村徹会長)の中里恒昭常務理事を中心として昨年開催されたヘルスツーリズム検討委員会においては、100%我々の考えが受け入れられ、ヘルスツーリズムとは「医学的根拠に基づき健康回復

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想

NPO イムノサポートセンター イムノリゾートマーク認証制度

西村 孝司



チエックの際のインフォームドコンセントなど、医の倫理を遵守して、医学的根拠を基にした観光を実践するための産学官連携のネットワークを構築して、スギ花粉症疎開ツアーを実践したことが高く

評価されたものとする。事実、上士幌町の花粉症疎開ツアーは「健康を考える観光」の原点となり、日本観光協会(中村徹会長)の中里恒昭常務理事を中心として昨年開催されたヘルスツーリズム検討委員会においては、100%我々の考えが受け入れられ、ヘルスツーリズムとは「医学的根拠に基づき健康回復

「科学的根拠を基に健康を考えようとするもの」を認証
会員募集：NPO事務局アクセス <http://www.immuno.jp> TEL:08060746183

医学的根拠に基づいた「健康を考える観光」を推進する NPO イムノサポートセンター イムノリゾートマーク認証制度



イムノリゾート
ゴールドマーク
イムノリゾート
シルバーマーク



「科学的根拠を基に健康を考えようとするもの」を認証

会員募集：NPO事務局アクセス <http://www.immuno.jp> TEL:08060746183

維持・増進につながる活動である」と定義された。すなわち、ニューツーリズムの柱となるヘルスツーリズムの基本的枠組みは北海道上士幌町から発せられたことになる。さらに本事業は国にも認められ、本年度の国土創発事業では、上士幌町が国土交通省、厚生労働省と共に発案者とな

者、弁護士、管理栄養士、検査技師、スポーツ指導員等を含む産学官の連携があつて初めて可能になる。高齢化社会の進展、生活環境の変化に伴い、国民の健康寿命増進の重要性は益々増大してきており、健康や体力の維持、増進、疾病予防を主眼としたヘルスツーリズムは今、ニューツーリズムとして最も注目を浴びている。健康ブームの現在、多くの人は健康に良い食環境、観光、医療を求めている。反面、誇大広告、捏造データー、賞味期限の改ざん

等、健康ブームを食い物にしたがっかりする事件報道が最近続いている。従って、ヘルスツーリズムにおいても、安易に健康に良いプログラムが含まれていまずと謳つては行かない。上士幌町の花粉症疎開ツアーを契機に、医学的根拠の実証を支援し、「健康を考える観光」を推進するためのNPO イムノサポートセンターを立ち上げた。ヤフーでイムノサポートセンターと入力すれば即座に検索できるまでに成長し、10月にメタバビートキャンプイベントを企画して以来、アクセス件数も急増してきている。現在、特別会員33名、個人会員28名が登録し、特別法人会員にはサント

「人介在試験で健康に良いことを証明したもの」にはゴールドマークを与える制度である。薬事法の関係上「効果が安心、安全な絶対基準を構築して、「健康を考える観光」を推進していることを無言で主張できる。イムノリゾートゴールドマーク第一号は、森林で上士幌町、食品でキッチンマンの「トマトのちから」、またイムノリゾートシルバーマーク、温泉、宿泊施設の第一号は糠平館観光ホテルが近々認証される予定である。

「食」「森林」「ホテル」「ツアー」等観光に関わる「健康に良いもの」にイムノリゾートゴールドマークやイムノリゾートシルバーマークを与える認証制度もNPO活動事業の大きな柱となっている。医師、科学者、管理栄養士、観光業者、行政担当者等からなる認証委員会が科学的データを審査して、「試験管レベルで健康に良いことを証明したもの」にはシルバーマーク、

「イムノリゾートマークって何?」「このイムノリゾートマークは、北大、札幌医大などの連携で医学的根拠を基に健康を真剣に考えようとするものに貼っている北海道独自の健康に対する真面目な取り組みらしいよ」ということが口コミで広がり、イムノリゾートマークを貼った「健康に良い食品、ホテル、森林、

ツアー商品」などが普及すればするほど、北海道は健康を考える真面目な方法を開発、安心、安全な絶対基準を構築して、「健康を考える観光」を推進していることを無言で主張できる。イムノリゾートゴールドマーク第一号は、森林で上士幌町、食品でキッチンマンの「トマトのちから」、またイムノリゾートシルバーマーク、温泉、宿泊施設の第一号は糠平館観光ホテルが近々認証される予定である。

体内環境の是正を目指した体系的な「健康を考える観光」を北海道で推進する枠組みはほぼ完成した。
(北海道大学遺伝子制御研究所・免疫制御分野教授、NPOイムノサポートセンター理事長 松本 彩 氏、松本 香葉子 氏、笠井 絵 美 氏)

地域の取組 事業イ

⑧松前、上ノ国、江差

松前、上ノ国、江差三町は北海道で最も古い歴史と伝統をもつ地域であり、約800年の歴史が培った郷土芸能や文化・歴史的建造物など多くの遺産が残され、自然環境や景観も共通した地域となつております。

他地域には類を見ない松前藩からの共有する歴史的資源をテーマとして、三町共同

により観光事業の展開ができないものか、三町の観光協会が昭和六十二年に松前、上ノ国、江差三町広域観光推進協議会を設立、さらに平成三年には、もっと広範囲での事業展開をすべく組織の名称を北海道歴史倶楽部へと変更し、さらなる

松前・上ノ国・江差 3町広域による観光の推進

が点在しています。これらの資源の統一化を目指すため、ニシンネサンス事業を展開。関係町村(ニシン街道)に、既に松前町、上ノ国町、江差町、瀬棚町、岩内町、積丹町、乙部町、奥尻町を取り込んでの広域連携による観光事業展開をすべく、九町広域連携による観光づくりフォーラムを開催し広域連携の再考を模索しています。

また、北海道新幹線の開通が近づいている事やシーニックバイウェイ構想など、北海道全体で取り組まれている事業もあり、現在の三町での広域連携のありかたの再考を模索しており、三年前から松前、上ノ国、江差三町のみならず、渡島西部の木古内町、知内町、福島町及び松山南部の厚沢部町、乙部町、奥尻町を取り込んでの広域連携による観光事業展開をすべく、九町広域連携による観光づくりフォーラムを開催し広域連携の再考を模索しています。



松前・上ノ国・江差 北海道歴史倶楽部推奨品

敬訪問と懇談会を実施しました。北海道歴史倶

に、青森市内旅行代理店の表敬訪問と懇談会を実施しました。北海道歴史倶

を展覧。平成十二年には道内からの集客だけではなく東北地区からの誘客を図ろうと青森、盛岡、仙台において同キヤンペーンを展開。現在は札幌地区・函館地区でのキャン

「食」「宿」「店」「観光施設」を発信すべく「新発見Y O U - 遊タウンマップ」を作成、旅行代理店・レンタカー

観光のお問い合わせは

北海道観光連盟 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル2階 TEL (011) 231-0941 FAX 232-5064

北海道さっぽろ「食と観光」情報館 札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口 TEL (011) 213-5088 FAX 213-5089

北海道経済部観光のくにつくり推進局 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁8階 TEL (011) 231-4111 (代) FAX 232-4120